

地震避難の仕方

※文科省作業部会の報告書から作成

① 大きな揺れの到達前

緊急地震速報が1周りに声かけ、安全な場所へ

震度5の揺れで行動が困難に。震度6弱、6強では机の下に隠れることも難しい。震度7程度までは冷静さを保てるが、それ以上は大きな恐怖心を感じる

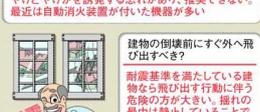


丈夫な家具に身を寄せれば安心? 阪神では家具が倒れて死亡した人が多い。安全な場所へ避難を

② 揺れの最中

動けなければ、姿勢を下げ、頭を守る。動けるならば、落ち着いて、身近な安全な場所へ

台所などの火はすぐ消すべき? やけどやけがを誘発する恐れがあり、推定できない。最近では自動消火装置が付いた機器が多い



建物の倒壊前もしくは外へ飛び出すべき? 耐震基準を満たしている建物なら飛び出す行動に伴う危険の方が大きい。揺れの最中は静止していることでけがを免れる例が多い

③ 揺れが収まった直後

靴をはき、ドアをあける。ブレーカーを落とす

阪神ではあわててはだして飛び出し、足をけがした人が多い

揺れが止まった後も建物が傾き、ドアが変形して開かなくなる例も

地震による停電から復旧した恐れ。遠電したブレーカーから出火する恐れ

長田区 5000棟全焼、500人犠牲

遠い現場消えぬ炎

前回の「備える」では、中部地方の東海、東南海、南海の三連動地震で被災した時、津波だけでなく火災も甚大な被害を齎した。死者も約1700人に上った。三連動地震が起きたのは、その被害が「阪神」を越えて、阪神の教訓から、火災への備えを考えた。

到着遅れ放水も無力

■住民からの罵声 地震発生後、本部要 前八時過ぎに到着した。長田区に向かう途中、黒い煙が街の上空を覆った。焼ける匂いも強烈。車は四、五台待たされた。焼ける匂いも強烈。車は四、五台待たされた。焼ける匂いも強烈。車は四、五台待たされた。



震災の火災発生後、一部に長田区市民の涙。県内各地で被災した市民の涙を拭きながら、消防士が活動している。

「消防士10倍でも無理だった」

揺れと火災対策



阪神大震災で燃え上がった神戸市長田区。1995年1月17日、神戸市長田区で

「消防士10倍でも無理だった」。火を食い止めるのは、必死に水をかける。必死に水をかける。必死に水をかける。必死に水をかける。必死に水をかける。

中部地方の消防力

	ポンプ車1台あたりの人口	救急車1台あたりの人口	人口
愛知県	319台	23400人	219万人
岐阜県	162台	13000人	180万人
静岡県	141台	13400人	188万人
長野県	174台	22000人	280万人
山梨県	160台	13500人	177万人
石川県	75台	10900人	148万人
福井県	67台	21100人	244万人

緊急車両 1万人超で1台。大震災が起きたら消防はすぐ到着できない。着いたとしても消火できない。阪神大震災で明確になった問題は、現在中部地方でも全く変わらない。

※全消防連合の資料が作成。人口は千人以下切り捨て

■地域を知る。長田区の会社員小林君が聞いてほしい。小林君は、家の間には上層気流が通る。長田区は約50年住んで、海にも近い。長田区は約50年住んで、海にも近い。長田区は約50年住んで、海にも近い。

ポンプ車や救急車は、限界があるので、消防士の数も減らして、消防力の確保に努めてほしい。消防力の確保に努めてほしい。消防力の確保に努めてほしい。